

人文科学研究所 研究報告会

日時：2023年12月2日（土）13：00～14：10

会場：オンライン（Zoom）開催 ※聴講自由

Zoom 参加を希望される方は、①所属、②氏名、③メールアドレスをご記入の上、人文科学研究所 (jinbunken@ic.daito.ac.jp)まで申し込みください。後日招待リンクをお送りいたします。

◆報告1 13：05～13：35

題目：虞世南「孔子廟堂碑」三井本中の〈描〉の内容

報告者：澤田雅弘／中国書跡の鐫刻鉤摹研究班（代表：澤田雅弘）

初唐・虞世南の「孔子廟堂碑」は立碑まもなく火で毀れ、則天武后時の重刻も唐末に亡逸し、いまでは摹刻（陝西本）の旧拓で補填された拓（三井本）と、後世の摹刻が伝わるだけである。清の翁方綱は補填箇所を弁別し、後世の「描」が施された字も指摘する。そこで、翁方綱の「描」説を総合し、該字について「描」の具体的な内容を考察する。

◆報告2 13：40～14：10

題目：唐代における『老子』解釈の概況について

報告者：高橋睦美／中国三教と景教の相互交渉研究班（代表：高橋睦美）

現存する『老子』注の古いものとしては河上公注・王弼注があるが、これらの扱いについて、唐代に問題となったことがあった。それは、唐玄宗による『老子』御注・御疏撰述に先立つ出来事であり、その経緯を詳しく見ることで、その当時の『老子』理解の傾向や、玄宗御注・御疏撰述における思想的な方向性などについても考えるヒントとなりうると考える。